

1. 生産コスト縮減に向けた取り組み

1) 低コスト・省エネ対策

① P K 低減肥料、緩効性肥料の利用による肥料費低減

長年の連作により土壌中にPやKの肥料成分の蓄積が認められており、各圃場に適した肥料選定を行い、無駄な施肥を控えた、安価な肥料を使用する。また、緩効性肥料の施用により、施肥量を削減する。

取組の事例

・ブロッコリーに合わせたリン、カリ集積圃場用の肥料や基肥一発肥料がつくられ、現地で使用されている。

普及に当たっての留意事項

・土壌分析による圃場の現状把握を行うとともに、有機物等の施用による施肥成分の影響も考慮する。

2. 今後導入及び普及が期待される取り組み

1) 低コスト・省エネ対策

① 畝内部分施肥による肥料費の低減

畝内部分施肥は、土地利用型の野菜生産において、肥料や根こぶ病防除剤等の各種資材を栽培する畝の中央部にだけ線状に土壌と混合して施用し、うね間など無駄なところには施用しない技術。また、施肥、畝立ての作業工程を1行程で行うことができ、作業体系の簡略化にもつながる。

取組の事例

・畝内施肥による肥料費低減
ライムソワーによる畝形成時の畝内施肥により、施肥量を10%削減している。

普及に当たっての留意事項

・肥料の施用量を30%削減して施用しても慣行と同等以上の収量確保が可能。

② 耐病性(根こぶ病)品種の利用

アブラナ科植物の重要病害である根こぶ病の汚染の拡大を防ぐために、耐病性品種の作付を行う。

普及に当たっての留意事項

・作付時期、品種特性等を十分把握した上で導入する。
・他の耕種的防除や薬剤防除等対策も含めて検討し、効率的な防除法で対応する。



根こぶ病症状

2) 省力化対策

① 共選の取組み

調整、梱包作業の共同化により、作業の省力化が可能。その分を収穫作業へ振り替えることにより、規模拡大、適期収穫につながる。

取組の事例

・雲仙市、五島市等大規模産地では実施されており、他産地でも増加中。

普及に当たっての留意事項

・製氷機の導入等、作業の効率を図るための施設整備を併せて行う。



共選の状況

② 生分解性マルチの利用 (4月どり)

微生物によって分解されるマルチであり、収穫後はそのまま鋤きこむことが可能で、回収作業等の労力が軽減される。また、処分のための経費も不要となる。

普及に当たっての留意事項

・栽培期間に応じて、保持(分解)のタイプを選定して使用する。

・加水分解や劣化による強度や機能が低下するので、1年以上の長期保管は行わない。



生分解性マルチ

3. 生産コスト縮減に向けた取り組み(経営シミュレーション)

(千円/10a)

項(費)目	H29現状		改善後		削減率	主要な取組み
	費用	割合	費用	割合		
種苗費	17	13.1%	17	13.5%	0.0%	
肥料費	41	32.0%	36	29.3%	11.7%	畝内部分施肥による基肥え30%削減
農業薬剤費	16	12.7%	16	13.1%	0.0%	
動力光熱費	4	3.4%	4	3.5%	0.0%	
諸材料費	9	7.4%	9	7.6%	0.0%	
減価償却費	7	5.7%	8	6.4%	-7.4%	畝内施肥機導入
雇用労働費	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	
その他経費	33	25.7%	33	26.5%	0.0%	
計	127	100%	123	100%	3.3%	
H29現状 対比	100%		96.7%			

※1経営体当り経営面積 200a(秋作)

(注釈)

* は、平成25年度長崎県農林業基準技術で採用した技術である。

主要な取組みの赤字は、今後導入及び普及が期待される取組み(技術)である。

各費目毎の削減率は、主要なコスト縮減の取組を組み合わせた際の削減率である。